

能登半島地震 豪雨災害支援



当協会は、7月に児童養護施設「あすなる学園」に女性の衛生用品をはじめ化粧品などを、10月には子ども達へのおもちゃを届けました。化粧品類は(株)宇津木産業様、おもちゃは(一財)日本おもちゃ図書館財団様からご寄贈いただきました。施設の子も達から心のこもったお礼の手紙が届きました。

また、伝統芸能や文化の再生が地域復興の確かな力になることから、8月23日に開催された「輪島大祭」を支援しました。大祭を開催することで、だんだんと風化しつつある能登半島地震支援の機運を再び高めるものになりました。

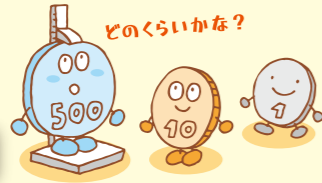
復興が少しずつ進む中、9月下旬に能登地方を襲った豪雨は大きな被害をもたらしました。交通網も大きな被害を受け、物流が滞り、物資が足りない状況となったため、飲料をはじめレトルト・インスタント食品など食料品のほか、非常用トイレ、大人用子ども用オムツを輪島市の重蔵神社に届けました。それまで地元の商店や農家から必要な物資を買って配る「なりわい支援」が行われていましたが、豪雨によりそれも難しくなり、外部から物資を届ける支援となりました。12月には、「あったかサポート」として防寒性の高い毛布100枚を届け、25日のクリスマスに配布されました。

発災から一年が経ちましたが、まだ困難な生活状況のため、引き続き支援を行っていきたいと思います。

ハビタット クイズ?!

from JAPAN

日本で一般的に使われているコインは、500円玉から1円玉まで6種類あります。それぞれの直径が何センチか当ててみましょう！正解を()の中に書いてみてね。



- どのくらいかな？
- | | |
|----------------|----------------|
| ① 26.5mm () 円 | ④ 22.0mm () 円 |
| ② 23.5mm () 円 | ⑤ 21.0mm () 円 |
| ③ 22.6mm () 円 | ⑥ 20.0mm () 円 |

ご協力いただきありがとうございます

2024年6月1日～2024年11月30日
(敬称略・順不同)

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができています。心から感謝申し上げます。

会費 中村 徹、藤田 毅、中 真規、原田 義信、大島 政子、角田 マリ、宮田 秀子、中村 麻子、錦織 優、佐藤 和恵、菊地 柳秀、錫切 順子、山村 より子、清水 雄二、今井 一彦、今井 則余、丹羽 浩康、滝澤 進、一柳 とく江、宮本 知枝、寺嶋 恵子、安藤 芳子、久保啓 啓一郎、土屋 嘉克、塩川 秀敏、下村 政裕、橋本 千晶、藤田 美江子、藤 恵美子

賛助会員 (株)新橋スタンプ商会、(株)エッチャールディ、ステーキ将門、山口 実知子、大塚 麻貴子、上山 佳彦、木下 ハツ子、佐々木 節子、安藤 久美子

ご寄附 山口 実知子、原田 義信、大塚 麻貴子、樋口 謙一郎、丸井 聡、笠 留美子、野田 泰子、宮田 秀子、伊藤 志朗、中井 禮子、清水 雄二、今井 一彦、山前 隆、三浦 教子、福迫 隆、塚越 勝美、田村 光代、錫切 順子、鶴見 和代、渡邊 きぬ子、山本 雅子、下村 政裕、藤岡 美千代、朝妻 幸雄、大隅 道子、堤 かなめ、丹羽 浩康、米澤 豊、土方 萌、瓜生 道明、坂口、(株)新橋スタンプ商会、(株)電通、ソフトバンク(株)、三菱商事(株)、カトリック上野毛教会、レイサム&ワトキンス外国法共同事業法律事務所、世田谷清掃局

マンスリーサポーター 大下 悟、今村 稔、岡田 耕造、古庄 弘美、下村 政裕、篠原 昭子、篠原 大作、清水 雄二、藤田 美江子、美甘 政門、三島 康雄、山本 博子、山本 嘉彦、岡部 正、橋本 政和

切手・書き損じハガキ、外貨等 JSCO、(株)日本海洋科学 / 経営企画グループ総務チーム、旭運輸(株)、郵船ロジスティクス(株)浜松支店、三菱商事(株)モビリティ管理部、郵船港運(株)、(株)ジェシービー、日本コンテナ輸送(株)本店、(株)グリーンライズラボ、逗子交流センター、カトリック上野毛教会、積水ハウス(株)東京南支店、レイサム&ワトキンス外国法共同事業法律事務所、世田谷清掃局、SI- 佐賀、SI- 鹿児島、SI- 佐賀フランス、SI- 佐賀中国、多田 明美、山村 稔、佐藤 隆、渡辺 桃、浅沼 尚也、堤 優子、古庄 弘美、菊池 いづみ、朝妻 幸雄、ニール・クリーガー、鈴木 裕美、一柳 とく江、田中 はるみ、佐藤 和恵、新井 麻衣、長岡 訓子、岸川 大介、田路 あつ子、丹羽 浩康、猪子 紀美、上藤 礼子、大隅 道子、田中英代、鶴見 和代

ご協力いただいた方及び団体 国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、国際協力機構(JICA)、(株)EMA、(社)日本フィナンソロピー協会、(株)エイチアールディー、アクセンチュア(株)、(株)LIXIL、(株)東急エージェンシー、(株)日影茶屋、(株)宇津木産業、(一財)日本おもちゃ図書館財団、木能実(wara no bag)、(公財)東京都つながり創生財団、福山女学園大学、半蔵門駅前郵便局、(株)新橋スタンプ商会、トラベルクリエイターズ、エクステンジャーズ、インターバンク、ハビタット福岡市民の会、アジアの女性と子どもネットワーク、こどもの夢ネットワーク、ボランティア・ハビタットフレンズの皆様

コインわけにご協力いただいた企業・学校 (株)SMBC 信託銀行、楽天グループ(株)

募金箱設置にご協力いただいた企業等 成田国際空港(株)、東京国際ターミナル(株)、北海道エアポート(株)新千歳空港事務所、中部国際空港(株)、関西国際空港(株)、福岡国際空港(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、長崎空港ビルディング(株)、那覇空港ビルディング(株)、逗子市民交流センター、(株)新橋スタンプ商会、(有)若田時計店、AOKI、咖啡店ストーンズ

T 05 05 5 001 01 005 1 : 世界のつながり

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会 (発行責任 篠原大作 / 編集責任 山本 博子)

〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-12 藤和半蔵門コープ 103 号 TEL / FAX : 03-3512-0355

E-mail : info@habitat.or.jp / URL : https://www.habitat.or.jp

2025年1月発行



JAPAN HABITAT
ASSOCIATION

HABITAT 日本ハビタット協会

まちづくり通信 No.46

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

新会長の就任

令和6年8月20日、永年にわたり当協会の発展のためにご尽力くださいました中村会長が享年89歳で逝去されました。心よりの感謝を申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。10月25日に臨時総会を開催し、若林陽介新会長が就任いたしました。

新会長からのご挨拶

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

去る8月20日 当協会会長中村徹氏が永眠いたしました。中村氏は平成18年のご就任以来、16年間の長きにわたり当協会を大所高所より率いてこられました。ここにあらためて故人のご功績に深く感謝するとともに生前のご厚誼に厚く御礼申し上げます。

このたび総会において後任として会長に選任されました。中学、高校、大学、そして国土交通省の大先輩でもある中村先輩の後継は身に余る大役であり身の引き締まる思いでございます。

世界情勢が複雑多様化する中、国連ハビタットと当協会が推進する住民主体のまちづくりの重要性が増しております。市民のみならずともに世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して、新体制の下、役員従業員一同全力を挙げて取り組む所存でございますので、何卒一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

認定NPO法人日本ハビタット協会 会長 若林 陽介

第12回 ワールドアーバンフォーラム

マリ・クリスティーナ

11月4日～8日に、エジプトのカイロで開催された第12回ワールドアーバンフォーラムに出席しました。ワールドアーバンフォーラムは国連ハビタットが2年に一度開催する世界最大のまちづくりに関する国際会議です。今年のテーマは「It all starts at home(地元から始めよう)」で、オンラインを含め182ヶ国から37,000人以上が参加し、様々な都市化の課題について協議しました。日本から東京都の小池都知事も参加され、東京のまちづくりに関して講演をされました。

国連ハビタットでは、今年6月に、アナクラウディア・ロスバツハ事務局長が新しく就任されています。これまでにスラムの改善や住宅問題、都市政策に関わってこられたブラジルの経済学者です。新事務局長は会期中、熱心に大小様々な会議に参加されていました。私が毎日出席した「草の根の女性たち」のセッションでも、「家は持続可能な社会を創る基本です。人々は家から仕事へ、学校へと出かけます。家の存在は貧困削減、気候変動、紛争、ジェンダー平等などの課題の解決の基本であり、子どもや若者が希望と勇気を持つことに繋がります。」とスピーチされました。

この会議の開会式で、驚くような場面に出くわしました。前方の入口に並んでいたら、「ここは男性用の入口です。女性たちは後方です。」と移動するように言われました。「なぜ?」「ジェンダー平等の会議の場で、女性と男性の入口が違い、女性を後ろに追いやるのはおかしい!」「私は国連ハビタットの職員ですが、そのような男女差別は間違っています!」と、並んでいた女性たちが口々に「No!」と叫び始めました。2018年に実施されたJICAの調査報告書によると、エジプトはまだ男女格差が大きな国であると報告されています。会場の係員は女性たちが平等に扱われていないと声を挙げていることを理解できないようで、ボディチェックを男性が行うべきではないと主張し譲りません。約1時間のやり取りの後、国連の係員が来て、私を含む女性たちは前方の入り口から入ることが許されました。ジェンダー平等は「絵に描いた餅」であってはならないと改めて感じています。



国連ハビタット アナクラウディア事務局長と



12回ワールドアーバンフォーラムの会場にて



草の根の女性たちのメンバーと

ケニア 生理環境改善プロジェクト

ケニアの女性が羽ばたけるコミュニティを目指して

ケニアの女性を取り巻く深刻な月経衛生対処の問題解決に向け、2023年から小中学校2校及び1村を対象に生理環境改善事業を開始し、2024年は小中学校4校及び15村にて活動を展開しています。

活動1 月経衛生への意識及び生理用品作成技術の向上を促すワークショップ

女性の体や生理、正しい月経衛生対処の知識を身に付けられるよう、村と小中学校にてワークショップを開催しています。単なるレクチャーでは飽きてしまうため、生理用品作成トレーニングも同時並行で行っています。古着からの布ナプキンと生理用ショーツ(男性の場合はトランクス)、固形・液体石鹸の作り方を教えています。また、石鹸については、KEBS (Kenya Bureau of Standards) の認証を受けた液体と固形石鹸を広めています。



活動2 農業技術トレーニングによる女性の所得と収入管理能力の向上

手作りナプキンは市販のものに比べて吸水性が劣るため、経血の多い2日目や就寝時に不安がつかまとい、市販のものを使いたいという女性が圧倒的に多いです。適切な月経衛生対処とは、女性たちが自分の生理状況に合わせて生理用品を自由に選択し購入できる状況であり、そのためには女性の所得向上を促していく必要があります。

貧困家庭の女性を主な対象に農業技術トレーニングを実施しています。栽培するのは、比較的早く収穫でき日常消費されるバナナ、そして、収入だけでなく生理中の貧血予防にも役立つかぼちゃを栽培しています。この地域では、量や栄養バランスが保たれた食事を適切に摂取されていないため、生理期間中や妊産婦のほとんどが貧血状態にあります。



活動3 家庭レベルの給水環境改善

生理期間中の身体および手作り生理用品を清潔に保てるよう、家庭レベルでの給水環境改善にも取り組んでいます。

1 雨樋設置トレーニング

雨水そのものは安全ですが、屋根や雨樋が土埃や葉っぱ、錆などで汚れていた場合には汚染される可能性があります。水専門家による雨水を有効利用するためのレクチャーを行ってもらうとともに、集水効果の高い雨樋の設置トレーニングを実施しています。

2 浄水剤トレーニング

一般的に多く利用されているのが池と川の水ですが、水質が良くありません。そこで、浄水剤を用いた浄水トレーニングを行います。20ℓの水を浄水するのにかかる浄水剤のコストは、1ケニアシリング(日本円で約1.1円)未満であるため、住民が継続的に安全な水を確保できるようになります。

安全な水と石鹸が、各家庭で使えるようになっています。



活動4 コミュニティ全体の意識変革を促す啓発活動

地域に根付く偏見や固定観念を変えていくためには、より多くの住民の啓発が必要です。保健省をはじめ女性問題に取り組む現地NGOなどと協力し、10月11日「国際ガールズ・デー」、3月8日「国際女性デー」、5月28日「世界月経衛生の日」などに合わせて啓発活動キャンペーンを実施しています。

国際ガールズ・デー (International Day of the Girl Child)

2024年10月11日、世界ガールズ・デーに合わせて啓発活動キャンペーンを実施。学校や村、同じくホームベイ郡で活動しているNGO団体も参加してくれました。イベントでは、生理用品づくりのデモンストレーションを行いながら、適切な月経衛生対処の大切さを伝えました。各家庭で実践されるように液体石鹸や固形石鹸の配布も行いました。

Community Dialogue Day

世界の日に合わせた啓発活動キャンペーンだけでなく、定期的に住民対話の場を設けて、さまざまな意見交換を行っています。ある日のイベントでは、男子学生が性教育で学んだことをみんなの前で発表してくれました。恥ずかしさもあったと思いますが、大人たちは彼の話に耳を傾けていました。地域に根付いた意識や偏見を変えることは簡単ではありませんが、一歩一歩着実に前に進んでいければと思います。



地域住民に広がりつつある生理プロジェクト!



日本 生理環境改善プロジェクト

日本の女性からケニアの女性へ

現在の日本では多様な生理用品が手に入るようになっていますが、「生理=穢れ」と見なされる月経不浄視の習慣は長い間続いていました。現在のケニアなどで起きている状況と変わらないものでした。脱脂綿や月経帯、ゴム、布ナプキンなど試行錯誤を繰り返しながら現在に至りますが、そのプロセスにおいて蓄積された経験や技術が日本にはあります。

ケニアで当初作られていた布ナプキンや生理用ショーツは、実用性が低い面がありました。そこで、当協会のボランティアの女性たちから挙げたさまざまなアイデアを反映した布ナプキンと生理用ショーツの見本を作成しました。日本の女性たちとケニアの女性たちのアイデアのシナジー効果によって女性のより良い環境を作っていければと思います。

日本の「生理の貧困」について考える

グローバルフェスタJAPANなどの国際協力イベントや企業、大学での展示や布ナプキンづくりワークショップを行い、ケニアの女性たちを取り巻くさまざまな問題への理解を深めるとともに、日本でも起きている「生理の貧困」をはじめ女性を取り巻く問題について考える機会としています。10月のAIDS文化フォーラムのセッションにおいて、マリ副会長が「ケニアにおける「生理の貧困」と」をテーマに講演を行いました。

日本でも起きている!! 生理の貧困は他人事じゃない



グローバルフェスタ JAPAN



AIDS文化フォーラム in 横浜

ラオス ラオス環境教育プロジェクト コミュニティベースでのゴミ処理システムの構築

ラオス北部ルアンパバーン市近郊のゴミ問題解決に向けて



学校で行われたゴミ分別とコンポスト作りの授業

都市が発展していくにつれ生活インフラが整備されていきますが、下水やごみ処理の分野は後回しにされがちになっています。ラオス北部ルアンパバーン県は観光都市として栄え、年間95万人の人が訪れます。ゲストハウスやホテル、レストランが次々とオープンする中、生活排水やゴミが大きな問題となっています。

ルアンパバーン市郊外にあるごみ埋め立て場には、毎日市内及びその近郊84村から全てのゴミが運び込まれ、分別されることなくリサイクル可能なゴミも積み上げられているため、埋め立てが追い付いていない状況です。近い将来埋め立て場の処理容量を超えてしまうと懸念されています。

適切なゴミ処理には、行政サービスによってゴミの回収と処理が行われるのはもちろんのこと、住民レベルでのゴミ分別が必要となってきます。資源局や都市サービス局、教育局と連携して、学校と村にて以下の活動を実施したことで、コミュニティベースでのゴミ分別とリサイクルが行われるようになってきています。

1 住民のゴミ分別意識の向上

学校と村においてゴミ分別意識を高めるためのワークショップを開催。講義だけでなく、ゴミ分別方法や生ごみからのコンポスト生産などの実践技術も教えています。

2 啓発ポスターの配布

多くのゴミが排出されるゲストハウスやレストランに正しいゴミ分別と捨て方を記載したポスターを配布。

3 ゴミ分別BOXの設置

学校と村で適切なゴミ分別とリサイクルが行われるよう仕分けボックスを設置。

4 行政と民間業者によるゴミ回収とリサイクル

行政と民間業者が連携し、住民が仕分けした一般ゴミとリサイクルゴミを定期的に回収しています。

